

普及活動の成果

様式6(左)

課題名 : 地域連携による飼料確保
活動対象 : 肉用牛繁殖農家、酪農農家

振興局名 : 県北振興局
実施期間 : 平成29年4月～
平成30年3月

【対象の概要】

- 管内の繁殖牛飼養戸数は912戸、飼養頭数は8,403頭(H29.4.1現在)で、16地区の各和牛部会により活動している。
管内の酪農家戸数は20戸、飼養頭数は1,203頭(H29.4.1現在)。牛群検定実施農家数は4戸となっている。

【課題設定の背景】

- 肉用牛繁殖経営における子牛1頭あたりの生産費に占める飼料費の割合は4割に達する。そのうち購入飼料の占める割合は7割であり、飼料費高騰による経費増加が課題となっている。
- 酪農経営においては1頭あたりの乳量向上により生産性の向上を図ってきたが、国際的トウモロコシ取引価格の上昇により、生産費の4分の1を占める飼料費が高騰しており経営状況が圧迫されている。一方、地域においても高齢化や米価の下落により水田活用の再編成が検討されており、稲WCSや飼料米、転作作物の検討が成されている

【活動目標】

- 候補地マップ活用による繁殖農家の放牧地確保支援とICTを利用し母牛を放牧地から動かさない飼養形態の確立。
- 高収量をめざした飼料専用品種の最適な作付け時期の確立。
- 酪農家における茎葉型品種の利用推進。

【関係機関との連携(活動体制・役割分担)】

- 各種事業について市町と連携し、実施した。生産性向上に関する現地指導については家畜保健衛生所、JAと連携し取り組み、振興局が先導的な役割を果たした。

【活動経過】

- 昨年度から2カ年計画で取り組んでいる、国直採の放牧事業について、事業実施3組合(9農家)の、今年度分の計画書作成および放牧牛導入等の事業実施支援を行った。また、放牧マップの更新については、水土里情報システムを活用して、紙ベースであった放牧マップをデータ化した。
- 放牧面積拡大意向2組合(平戸1、松浦1)について、県単事業を用いた、放牧面積拡大支援を行なった。また、来年度事業を活用し、放牧面積拡大意向を持つ農家4戸(生月)について、放牧予定地の現地調査を行なった。
- 生月町山頭共同牧野(27ha)の牧柵改修実施について、牧野組合員間の合意形成、2畜産農家の組合新規加入、県単事業の実施、国立公園法への対応等の支援を行なった。
- 小値賀町スマート放牧の管理運営について定期的に検討会を開催した。繁殖管理、放牧場内の分娩房の整備について検討を行った。また、次年度の冬季草地造成における寒地型牧草導入の検討を行った。
- 酪農家での自給飼料状況調査について、アンケート調査を実施した。農地利用拡大の意向がある3戸について、現場聞き取り調査を行った。
- 田平町および大島村、里美町において、茎葉型飼料イネ専用品種「たちあやか」の現地展示圃を設置し、8月に収量調査を行なった。
- 酪農巡回指導については、田平町の酪農家に対し、牛群検定を用いて、繁殖成績、乳量改善の指導を行い、併せてボディコンディションスコア(栄養度)のチェックにより、泌乳ステージに応じた飼養管理ができてきているかの指導を定期的実施した。合わせて、牛群検定表の見方・活用方法について指導を行った。また、鹿町の酪農家に対し、「繁殖台帳WEBシステム」を活用した指導が出来るよう家保、家畜診療所に対しシステムの使用方法について説明した。

- 搾乳ロボットの導入については、江迎町の酪農家が検討しており、県が企画した搾乳ロボットの視察（熊本県）を紹介し、同行した。また、田平町の酪農家に対し、省力化機械「キャリーロボット」の紹介を行った。

【普及活動の成果】

- 放牧事業については国直採事業を利用し、放牧用の繁殖牛を8頭導入することができた。また、平戸市の放牧モデルマップが作成できた。平戸市1戸、松浦市1戸において、県単事業を利用し、合計99aの放牧場を新たに整備できた。また、平戸市生月町放牧意向4農家（計3ha）について、来年度事業での面積拡大に誘導できた。
- 県単事業を利用して、生月町山頭共同牧野（約27ha）の牧柵補改修を実施できた。このことにより、来年度以降64頭の放牧頭数増が見込まれることとなった。
- 小値賀町スマート放牧では放牧場内における分娩室、冬季に給餌が行えるロール用飼槽（スタンション付き）を整備することが出来た。
- 酪農家での自給飼料状況アンケート調査の結果、自給飼料作付面積を拡大する上で、労力不足が1番の課題であり、耕種農家と連携したWCS利用面積の拡大を希望していることが把握できた。
- 茎葉型飼料イネ専用品種「たちあやか」の現地展示圃では今年度は干ばつ等の影響により、イネの初期生育が悪く、全ての展示圃で国の試験結果を下回る結果であった。
- 酪農巡回指導により、田平町の酪農家は繁殖成績が改善されていることが確認できた。（※牛群検定表より）しかし、鹿町町での「繁殖WEBシステム」の活用についてはデータ入力の一部、進んでおらず、また、十分な活用が出来ていなかった。
- 搾乳ロボットの導入について、江迎町の酪農家は現時点で未定であり、今後も導入について検討をしていく意向があることがわかった。また、田平の酪農家については、後継者が酪農を継続して行うのであれば、省力化機械の導入等について検討するという意向があることが把握できた。

【対象の声】

- 今後は共同牧野の管理運営についての検討を進めたい。引き続き、指導、助言をお願いしたい。
- 「繁殖WEBシステム」についてはぜひ活用していきたい。今後も指導を願いたい。

【今後の課題】

- 放牧事業について国直採事業を利用した3組合について、計画書に沿った放牧が実施されるように、引き続き事業実施支援を継続する。また、データ化したマップの更新を行い、放牧推進に活用する。
- 生月町山頭共同牧野（約27ha）の牧柵補改修では計画書に沿った放牧計画の実施に向けて、進捗管理を継続するとともに、今回の事例をうまく活用し、停滞している近隣の共同牧野の再活用に向けて、牧野関係者との協議を実施する。
- 小値賀町スマート放牧は引き続き冬季時における放牧場の草地造成、寒地型牧草の導入について検討を行う。また、スマート放牧の整備には多大のコストがかかっており、再度、必要な機器について絞りこみを行い、導入コストの低廉化を検討する。
- 耕種農家との連携による酪農家の稲WCS作付面積の拡大について関係機関と協議し、進めていく。
- 次年度は、再度、茎葉型品種の展示圃を5箇所設置し、うち2箇所については、品種展示と合わせて、新品種について品種比較試験を実施し、茎葉型品種を推進することで稲WCS作付面積の拡大を図る。
- 田平町の酪農家に対し、牛群検定を活用して定期巡回指導を行うことにより、繁殖および乳量改善に繋げる。また、「繁殖WEBシステム」の活用についてはデータ入力を進める様、引き続き指導を行う。
- 引き続き、搾乳ロボットに関する情報提供を行う。

【成果の活用及び普及活動上の留意点】

- なし

【発表・参考資料】

- なし